

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 黒野貞夫
 幹事 山本眞輔
 会報委員長 秋山茂則

No. 33

行動に信念を 信念は行動に

BELIEVE IN WHAT YOU DO

DO WHAT YOU BELIEVE IN

1993~94年度 RI会長 ロバート・R・バース

第563回例会 平成6年3月15日(火)晴

◇ “我等の生業”

◇ ビジター紹介 1名

◇ 出席報告

会員 66(65)名 出席 52名

出席率 80.00%

前回 3月8日(修正出席率) 98.48%

◇ お誕生日祝福

魚津夫人(3/19)、竹内君(3/20)、成田君(3/21)

◇ ニコボックス

三好 親君 今日、お話をさせていただきます。

秋山 茂則君 昨夜三匹の子猫が生まれました。ニャーニャーとまだ鳴いていません。

小山 雅弘君 今日、我家の早咲きの桜が開花しました。

松島 孝彰君 寿—

宮尾 紘司君 17日に日進町へ引越します。遠いのであまり夜遅くまでつきあえません。ごめんなさい。

永井 正義君 3日ゴルフ会で優勝しました。結婚記念日祝い。

佐久間良治君 本日娘の卒業式です。

笹野 義春君 皆さんお元気ですか。(ごあいさつ)

竹内 眞三君 「春の椿事」といおうか、「老いてますます盛ん」といおうか、麻雀会又又連続優勝。ヘボを上手に勝たせてくれる仲間の皆様に感謝あるのみ。誕生日祝い。

和田 正敏君 早退します。

成田 良治君 お誕生日祝い。

魚津 常義君 夫人誕生日祝い。

江崎 民夫君、太田 茂君、尾関 武弘君 結婚記念日祝い。

◇ 山本幹事報告

1. 本日例会終了後、委員長会議を開催いたしますので、各委員長はそのままお残り下さい。

◇ 黒野会長挨拶

学校からの定期検診(人間ドック)に行き、心臓の疾患を指摘されて以来、循環器科の先生にみてもらっています。もう十年を越す有様です。そんな時のことです—豊田穰氏の死去の記事を新聞で見、その後、文芸評論家進藤純孝氏の「豊田穰氏を悼む」を読みました。

最初の入院から3年後の平成2年、心臓発作で緊急入院し、病室で古稀(70歳)を迎えた。「はっきり告知された方がいい」と医師に請い、3年という答えを引き出したのは、このときであった。

「心臓告知」はその様子を描いた作品だが、退院して間もない早朝、散歩に出、残っていた星が光を失い曙光の中に吸い込まれていくのを眺めながら、「死ぬのならあのようにさりげなく死んでゆきたい」

と、独り翫う場面が結びとなっている。とあります。早速この『心臓告知』を注文しましたが、この本がやっと届きました。全部をまだ読み終えていませんが—。『長良川』で直木賞を受賞して以来20年、3万枚を超える同期の戦友鎮魂の文学です。『心臓告知』はじめのところを少し読んでみます。

◇ 講演

“危険がいっぱい！”

でもいろいろ教えられる大自然”

会員 三好 親君

〈登山と魚釣りセット〉

夏が近づくとソワソワします。溪流の魚達も1年中で一番活発になり、体も立



派に成長する頃であります。

溪流といっても登山と何ら変わることがなく、体力と気力が必要であり、これに魚釣りをセットにしたのが、この命がけの趣味であります。目あては一応、源流に潜むイワナ……。

春から夏の終りにかけての約半年がシーズンですが、本当の意味で存分の釣りを楽しめるのはもっと短くて、6、7月の2ヶ月くらいです。5月の連休の頃はまだ山奥では残雪があり、あっちこちにスノーブリッジがあったり、がけ崩れになっていたりとても危険です。特に私達が入る谷は……。

そして、やっと雪どけが終り、地盤も安定した頃を過ぎると今度は盛夏になり、木々が葉を一杯つけて川面を覆ってしまいます。そう思う様にポイントに釣り糸を投げ込むことは出来ません。ですからBestな状態で釣りが出来るのは本当に短い期間です。

〈危険がいっぱい〉

山に入るときは決して一人では入りません。必ず友人と二人です。それも25年間同じ人間であります。万一のことを考えるととても一人では危険なのです。

長野県の阿寺川支流の北沢という100mぐらいのV字谷の険しいところがあり、その中腹に森林鉄道の軌道があります。この軌道を歩いて登っている時マクラ木のコケで滑ってびっくりかえってしまいました。ちょうど本能的に山側にこけて無事でありましたが、もし谷側にこけていたら……と思うとゾッとします。さらにはやはり長野県の伊那谷に入った時がけ崩れになってしまい、車を林道の奥に1週間置いて帰ったこと、そして何年か前の3月、どこの谷か忘れましたが、重装備のまま川に落ち、心臓が止まるかと思ったこともありました。

〈苦勞のあとの楽〉

いろいろ命がけの苦勞をすると大体は大きなイワナにめぐり会い、しんどいこと、恐ろしかったこと皆忘れてしまいます。でもイワナという魚は顔が恐ろしいです。口は大きくさげ、歯がギザギザして見ると悪食というのが判ります。

〈さる軍団との出会い〉

飛騨小坂の源流にはさるがとてたくさんいます。それも20~30匹のグループがほとんどであります。私達もある時川原で遭遇し緊張しました。ボスが私達をチェックしているのが十分感じられます。こんな時、さるをジッと見つめてはダメです。意識だけしながら目と目を合わさないこれが必要です。あとはゆっくり行動し、走ったり急な動作をしないこと、とにかく相手を刺激しない様に心がければ心配いりません。

〈憎き根尾の熊とカラス〉

8月の根尾はとてもきれいです。水は澄んでいて別世界の様です。出発する時に買っておいだレトルトカレー、パックのごはん、クッキー等荷物を川原に置いて川に入りました。お昼に帰ってみると荷物は全部外に散乱し、食物は全てパックを食いちぎられもちろん中味は何もありません。カラスです、悪いのは。とてもくやしくて腹が立ちましたが、荷物のカバーをするのを忘れた私達が悪いのでした。カラスはとても頭が良いのでひものとき方、中味の出し方はよく知っています。午後、少し下流に下って川原のあしの中を友人と2人で歩いていたら、私の2m程前を歩いていた友人が突然何も云わずにUターンして走り出し、しばらく行ってから“熊だァー”とのこと。最初はピンと感ずるものがなく私はあしの中から横の川原をのぞいてみました。そうしたら川の中ほどに熊がこちら岸に泳いでくのが見えました。やっと事の重大さが判り、私も全速力でUターンし、難を逃れることが出来ました。この時思ったのは、今も思っていますが、男の友情？は何と薄情なものかと……。

〈相手を知る〉

がけ崩れ、さるとの出会い、熊との出会い、軌道上での転倒、川への転落、川の増水、落石等、どれをとっても危険だらけです。でも相手をよ〜く理解し、状況判断すれば何てことはありません。かえって楽しいくらいです。

〈自然と一体化〉

いろいろ山での遊びは教えてもらうことが多いのですが、マナーと常識を守り、大自然とフィットする様にしたいと思っています。例えば、もうじき山菜が出る頃ですが、タラの芽は出た芽だけきれいに切り取り、決して枝から折らない。フキは根っこを残して取る、根こそぎとらない。魚は15cm以下は放流し、釣バリはモドシのないものを使い、魚をキズつけない等々まだいろいろありますが残りは山でお教えます。

◇例会変更のお知らせ

豊山城北RC 3/29(火)春の家族会の為、3/27(日)名古屋港水族館にて9時より

◇自宅転居のお知らせ

会員 宮尾 絃司君
新住所 〒470-01 愛知県日進町五色園1-1112
TEL 05617-2-5225

◇次回例会(3月22日)

講演“釣り”

会員 岡島 常男君

◇次々回例会(3月29日)

講演“戦後世代の独り言”

会員 柵木 充明君